令和6年(2024年)度 学校経営方針

1 学校教育目標

「ぬくもりのある北夙川の子を育てる」 - 輝け! やさしく たくましく

めざす児童像

「自ら学び考える子」: 自分で判断し、表現・行動できる子

「思いやり ともに伸びる子」: 自分を大切にし、友達を大切にする子

たがいの違いを認め、ともに伸びる子

「粘り強く 挑戦する子」 : 体や心を磨き、自分の命を大切にする子

目標に向かって、粘り強く努力する子

めざす学校像

【子供にとって】

- ○明日も来たいと思える学校
- ○安心感と居場所のある学校

【保護者にとって】

○子供の育ちのために連携し信頼できる学校

【地域にとって】

○地域をつなぎ、地域とともに歩む開かれた学校

【教職員にとって】

○チーム北夙川の一員として、やりがい、働きがいのある学校

めざす教職員像

- ○子供に寄り添い、子供とともに歩む教職員
- ○子供理解に努め、生かし、伸ばす教師
- ○よりよい授業や教育活動を目指し、研修に努 める教師
- ○安心安全な教育環境づくりに主体的に参画協 働する教職員
- ○越木岩地域の人づくり・街づくりに貢献する 教職員

2. 現状と課題

本校の特徴として、卒業時に私立中学校を目指す児童が、比較的に多いことが挙げられる。帰宅後の多くの時間を受験等の準備に充てており、登校が遅れがちになったり、朝から疲れた様子を見せたりする高学年児童は少なくない。

学習面では、全国学力・学習状況調査等の結果から、良好な状況であると考えられる。教職員の捉えによれば、授業の場面では、素早く正解を求める姿が見られる一方で、自分の考えを人前で表現することに苦手意識を持つ姿がある。また、個々の状況に目を向けると、学力不振の児童も少なからずいる。学校の学習に物足りなさを感じている児童がいる一方で、授業について行くのがしんどい児童もおり、学力の二極化は本校の大きな課題であると言える。

生活面では、笑顔で過ごしている児童が多い中、通学しにくい状況が続いている児童もあり、その背景には、家庭環境の問題、児童自身の発達上の課題、学校における人間関係の問題等があると考えられる。 これらの児童については、学校における温かな居場所づくり、適切な支援者の体制づくり、専門的な知見に基づく共通理解の場等を用意する必要がある。

地域の状況については、歴史と伝統のある越木岩地区の住民が熱心に学校を支えていることが特色である。通学時の正門前や交通量の多い交差点での見守りなどを通して、本校保護者や地域住民が児童生徒に 挨拶したり、気軽に声を掛けたりしている。また、夏祭り、越木岩神社の祭礼、自主防災会の活動などの 大がかりな地域行事の中で、児童は数多くの貴重な社会体験を積むことができている。

3年間に及んだコロナ禍は、友達と向き合うこと、しっかり会話すること、手と手を取り合うことなど、 児童の発達、特に人間関係に関わる大切な活動に制限をもたらした。制限は解除されたが、子供たちへの 影響は今後も続いていくと考えられる。中でも子供たちの人間関係において、「関係を構築する力」「トラ ブルを解決する力」「関係を修復する力」等の低下が懸念される。そのためにも、仲間と力を合わせて活動 する中で共に喜び、共に悔しがり、共に認め合うなどの経験が、児童の学校生活をより充実させるために 必要である。また、学習の場面においても、「対話的で深い学び」につながる活動を積極的に取り入れてい きたい。相手を理解し、尊重し、自分の意見も出しつつ、折り合いをつけて合意形成を図る対話力を身に つけることが重要であると考える。

児童にとって行きたい学校、保護者にとって通わせたい学校、地域住民にとって大切にしたい学校となるよう、学校運営協議会を今後も充実させ、今後も学校・保護者・地域が協働する「コミュニティ・スクール」として、教育活動を進めていく。

3 学校経営の重点

領域	項目	経営方針
カリキ	①組織運営	・児童にとっての居場所がある学級づくり、児童にとって行きたいと思える学校づくりをす
		すめる。
ュラ		・児童理解を深め、学年や学校体制で組織的に児童の支援を行う。特に学年の横の繋がりを
ム・マネジメン・		意識し、担任一人ではなく学年としての指導の充実を図る。
		・市費職員や県費教職員、及び支援員等が共通の目標のもとに一体となって学校運営に主体
		的に参画・協働できる体制を築く。
	②家庭・地域との連携	・学校だよりの発行やホームページの更新により、学校からの情報提供を積極的に行う。
トの		・PTA活動について、趣旨や存在意義等を共通理解するため、丁寧な議論を心掛ける。
推進		・学校運営協議会の場で、学校の状況を丁寧に説明し、学校経営に生かす観点から地域の思
		いを聴き取る。また、保護者アンケート等を実施し、保護者の声を学校運営に生かす。
		・地域の「人・もの・こと」と関わることができる教育活動を行う。
		・幼保小の連携を進め、子供の育ちをつなぐとともに、きめ細かな指導に生かす。
		・夙川小学校、苦楽園小学校、苦楽園中学校との連携を強め、小中一貫教育を推進する観点
		から、児童への指導を充実させる。

4 教育活動等の重点

領域	項目	経営方針
	①教育課程・	・学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の実施を行う。
教	学習指導	・年間指導計画を随時見直し、単元の指導ポイントや学習評価等について、学年での共通理解
		を図りながら進める。
育		・兵庫型学習システム加配による教科担任制を推進し、専門性のある学習活動を推進する。
		・ICT機器を積極的に活用した教材研究を進める。
活		・「わかった」「できた」という体験や、学ぶ楽しさや成長する喜びを実感できる授業づくりに
		努める。
動		・「深い学び」につながる対話的活動による思考力・対話力を育成する授業づくりを進める。
		・基礎基本の徹底と少人数指導など、個に応じたきめ細かな指導の工夫、改善を行う。また、
		必要な児童に対して個別指導の場を用意する。

(2)生徒指導・ ・人間尊重の精神を基盤とした日常の生活指導を大切にし、課題に対して自分で考え正しく 判断し行動する力を育てる。 人権教育 ・日頃から個々の児童理解に努め、教職員の児童理解を深めるとともに、問題を未然に防ぐ開 発的・予防的な生徒指導に取り組む。 ・学年内での交換授業、高学年の教科担任制により、子供たちを複数の目で見守り支援できる 体制を強化する。 ・問題が発生したときは、子供が納得する指導を心がけ、学年や学校などの組織としての方針 のもとで指導するとともに、必要に応じて家庭や関係機関と連携しながら解決を図る。 ・人権学習の充実を図り、身近な生活の中の不合理に気づき、それを自分の問題として解決し ていこうとする意欲や実践力を育てる。 ・異年齢の縦のつながりと、同年齢の横のつながりを大切にし、特別活動(児童会、ペア活 動、委員会活動、学級活動等)の充実を図る。体験を通して自己有用感や人権意識を高め る機会とする。 ・「考える道徳」により、子供一人一人が自分自身と向き合い、素直な思いを語り合い、生き ③道徳教育 方についての考えを深め合える時間となるよう、道徳の授業改善を図る。 ・道徳の時間を中心に、様々な機会を通して「命の大切さ」「自尊感情」「思いやりの心」「困 難に負けない心」など、人間としてよりよく生きるために必要な価値観を育成する。 ・学級や学校などの中で役割を担い、責任を果たしながら、自分らしい生き方を拓く力、社会 (4)キャリア教育 の中で人とともに生きる力の基礎となる力を育てる。 ・一人一人の社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるため、キャリアパスポ ートを活用し、小学校における学習活動や体験活動が自分の将来につながることを意識さ せ、自己選択、自己決定する場面を数多く経験させる。 (5)特別支援教育 ・個別の指導計画、個別の教育支援計画をもとに、一人一人の教育的ニーズに応じた教育環境 と支援内容を明確化し、共有化を図る。 ・支援委員会や生指・支援全体会の場で個々の児童についての共通理解を図り、全職員で支援 を行う体制を構築する。 ・通級指導の場が、児童にとって必要な力を身につける場であるとともに、自分らしく過ごせ る場になるように、個々の状況を踏まえながら計画的に活用する。 ・学校に来にくい児童、教室に入りにくい児童が過ごすための別室を設置する。 ・全教職員が特別支援教育の理念を踏まえた児童理解を深めるとともに、特別支援教育コー ディネーターを中心に保護者や地域、関係機関等とのネットワークの整備を進める。 6)学校図書館教育 ・生活を楽しんだり、学習に役立たせたりするために、学校図書館を有効に利用する態度、習 慣、技能を身につけさせる。 ・学校司書・図書ボランティア等と連携し、「読書週間」の設定等、児童が意欲的に読書に取 り組むことができる環境づくりに努める。 (アトル鰓カテ・トル鱧゚・保健・安全・食に関する指導を教育活動全体で行い、 心身ともに健康で自律的に行動できる 心豊かな児童の育成を目指す。 ・健康上配慮を要する児童について全職員が共通の認識を持ち、体制の充実を図る。 8)研究·研修 ・個々の教員が力量形成を図れるよう実践的に研究を進める。 ・サブテーマを変更し、議論しながら互いに学びを深める姿を目指すことを明確化した。 研 (研究テーマ)『自分の考えをもち 表現できる子を育む』 究 ~対話的活動を通して「問い」を追求する授業の創造~ (授業づくりで大切にしたいこと) 研 ○子供の主体性を引き出す「問い」の追求(主体的対話的で深い学び) 修 ○魅力的な単元計画 (カリキュラムマネジメント) ○学び方を仕組む(個別最適な学び・協働的な学び)

5 環境・管理に関する指導の重点

領域	項目	経営方針
	①施設・設備	・安全で安らぎのある環境づくりと整理整頓(教室・廊下・各倉庫・準備室等)を行う。
		・美化や緑化などに努め、季節感のある環境づくりに努める。
		①清掃指導 ②花壇・鉢植えの世話 ③季節感のある掲示(廊下・階段等)
		・雨水による浸水被害を防ぐため、排水溝の清掃作業等を進める。
環		・清掃指導を充実し,自分たちの学校を大切にする気持ちを育て,美しい学校環境を作る。
境	②安全管理	・日常生活や授業、行事等様々な機会を通して安全指導を徹底する。
•		・安全・美化・情報相互点検を定期的に実施し、安心安全な教育環境づくりに努める。
管		・運動場や遊具について、より安全な環境を目指して整備に取り組む。
理		・保健指導、保健学習、防災学習、防犯学習等、学校での具体的な危機管理の取り組みについ
		て、保護者や地域の人々の理解を得るとともに、地域や関係機関と連携した安全な学校づく
		りを行う。
		・自然災害や不審者の侵入などを想定した避難訓練・引き渡し訓練・防犯訓練等を実施し、必
		要に応じて対処の改善を図る。